

本市の犯罪情勢について

資料 1

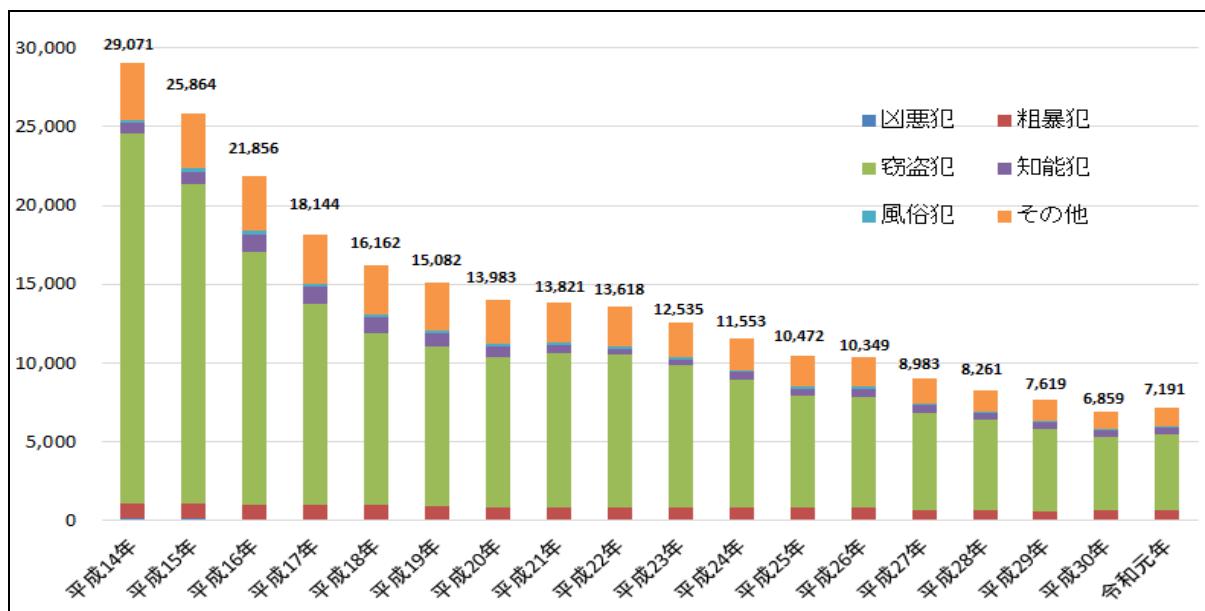
1 刑 法 犯

(1) 認知件数

本市の認知件数は、令和元年は 7,191 件となり、平成 30 年から 332 件増加しましたが、ピーク時の平成 14 年の 29,071 件と比較して、約 4 分の 1 まで減少しています。

刑法犯認知件数を罪種別にみると、「窃盗犯」(侵入盗や乗り物盗) が最も多く、次いで「その他」(器物損壊、住居侵入など) となっています。

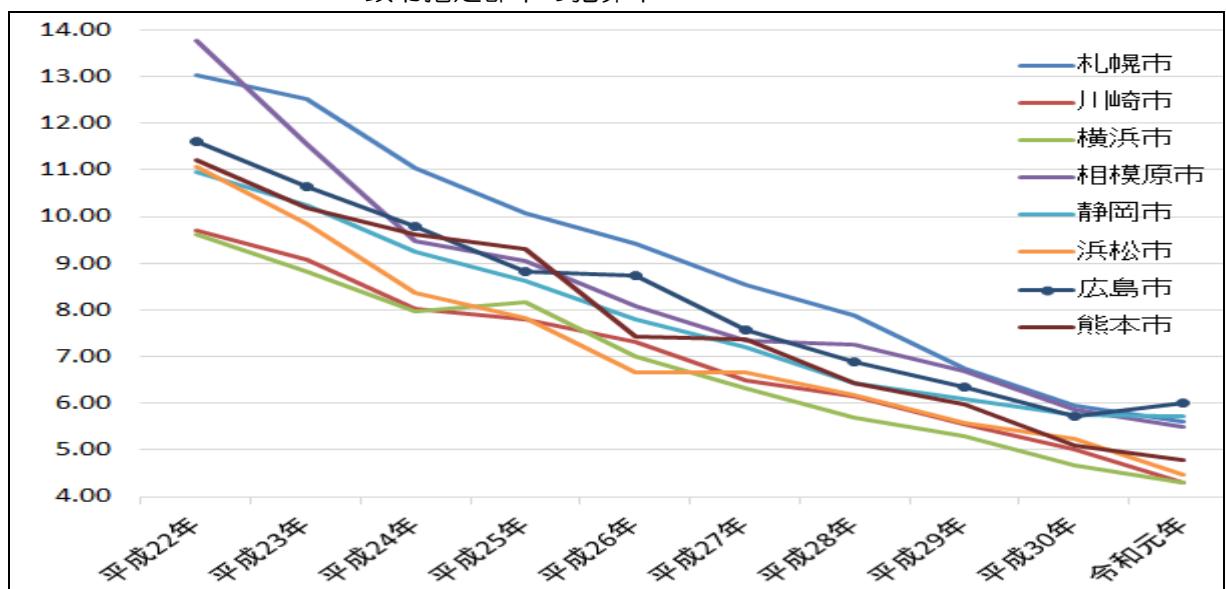
本市の刑法犯認知件数



(2) 政令指定都市の犯罪率

犯罪率（人口千人当たりの刑法犯認知件数）について、本市は政令指定都市の中で過去 10 年間のうち、平成 25 年と平成 30 年が本市として最高位の 5 位でしたが、令和元年は 8 位となっています（グラフでは令和元年の上位 8 市を示しています）。

政令指定都市の犯罪率

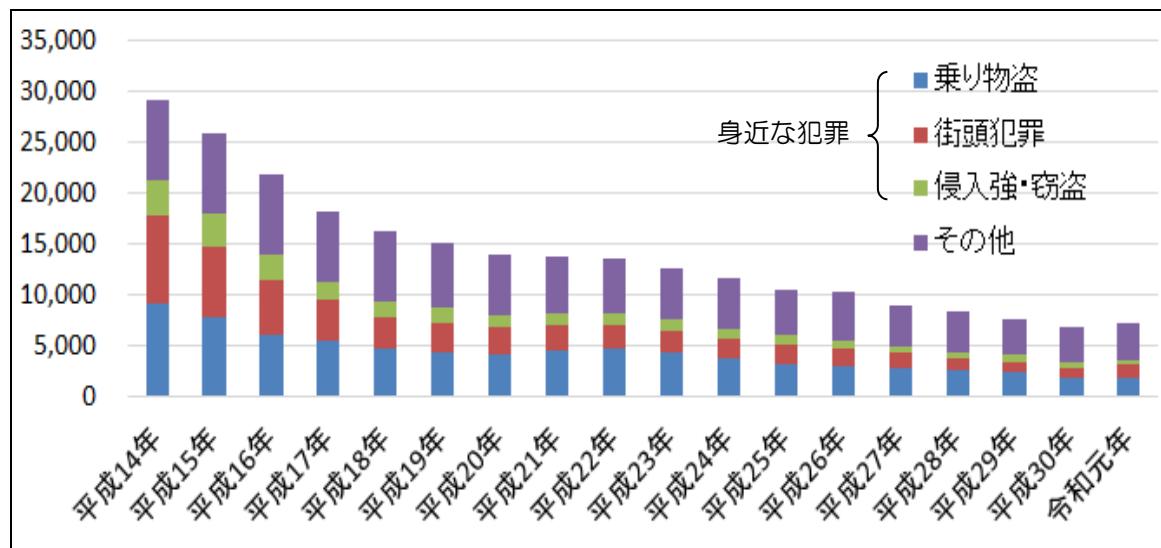


※ 人口は令和元年 12 月 1 日付け推計人口

(3) 身近な犯罪の認知件数

刑法犯のうち、「乗り物盗」(自転車盗や自動車盗など)、「街頭犯罪」(器物損壊や車上ねらいなど)、「侵入強・窃盗」(侵入強盗・窃盗や住居侵入)は、市民が日常的に被害に遭う可能性の高い「身近な犯罪」と言われ、刑法犯認知件数の約5割を占めています。

本市の身近な犯罪の認知件数



本市の身近な犯罪の認知件数の内訳（5年前との比較）

区分	平成26年	令和元年	増減数	増減率(%)	(参考)平成14年
乗り物盗	3,027	1,880	▲1,147	▲37.9%	9,195
自動車盗	18	15	▲3	▲16.7%	179
オートバイ盗	337	62	▲275	▲81.6%	2,791
自転車盗	2,672	1,803	▲869	▲32.5%	6,225
街頭犯罪	1,706	1,180	▲526	▲30.8%	8,629
路上強盗	5	0	▲5	▲100.0%	12
ひったくり	35	5	▲30	▲85.7%	608
恐喝	30	20	▲10	▲33.3%	235
車上ねらい	322	219	▲103	▲32.0%	1,985
自動販売機ねらい	31	128	97	312.9%	3,046
器物損壊	1,283	808	▲475	▲37.0%	2,743
侵入強・窃盗	742	489	▲253	▲34.1%	3,424
侵入強盗	4	1	▲3	▲75.0%	17
侵入窃盗	581	356	▲225	▲38.7%	3,109
住居侵入	157	132	▲25	▲15.9%	298
総数	5,475	3,549	▲1,926	▲35.2%	21,248

※性犯罪は除く。

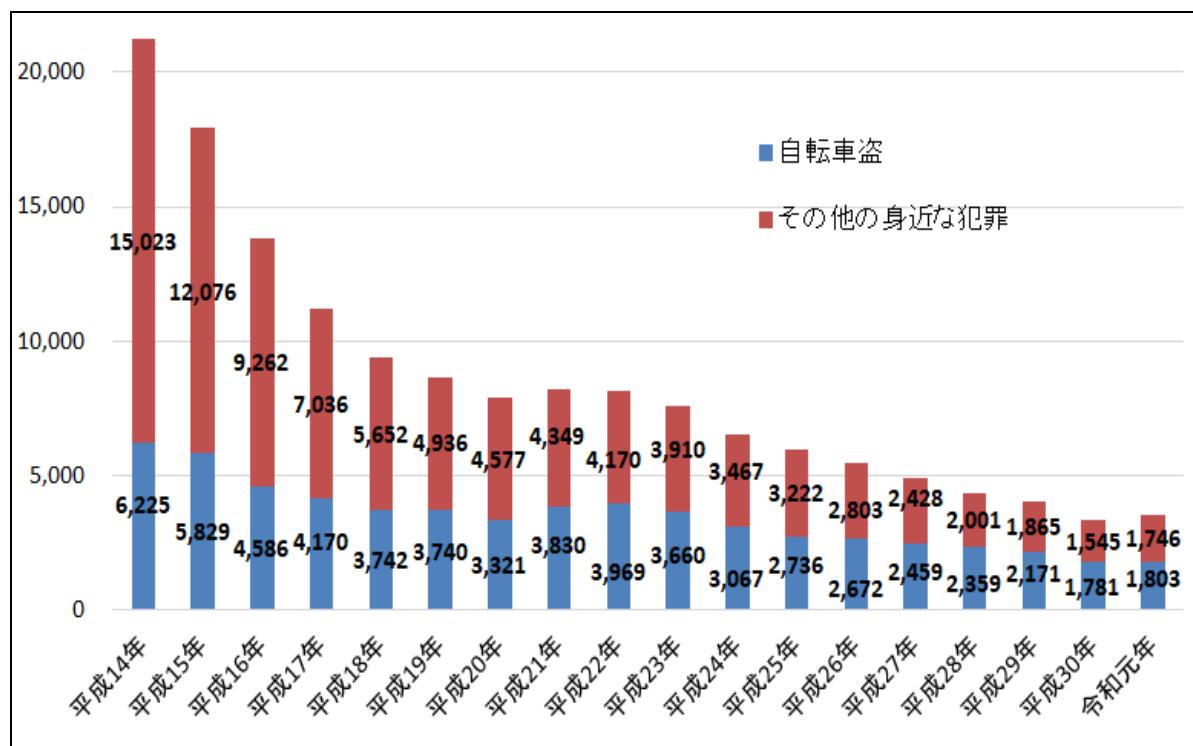
(4) 自転車盗の認知件数

身近な犯罪の中で最も件数が多いのが乗り物盗です。

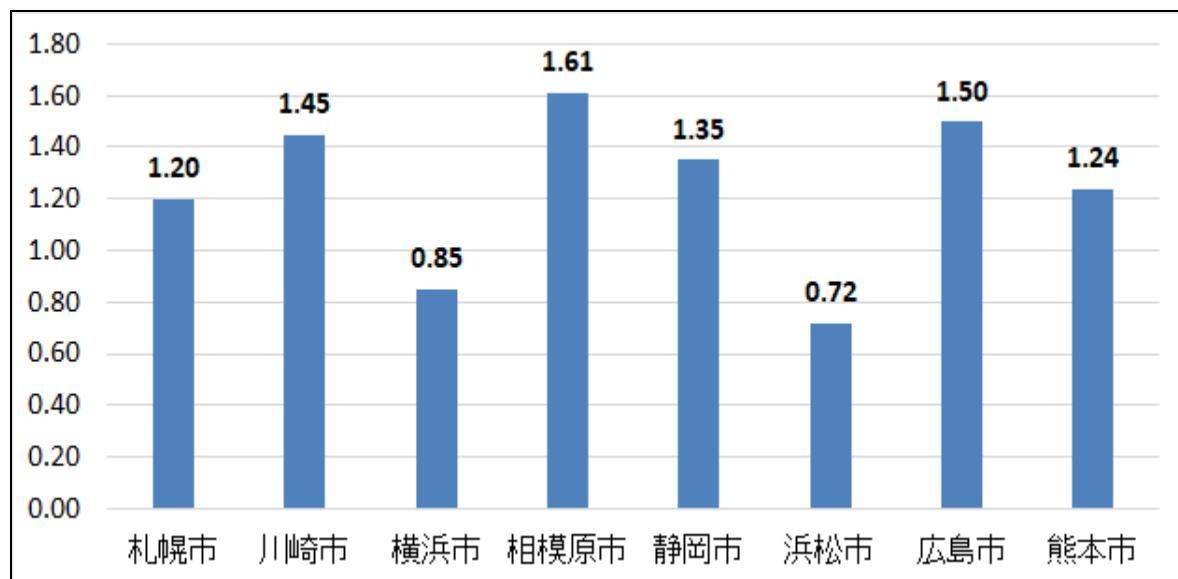
なかでも自転車盗は、令和元年中の全刑法犯認知件数の 25.1%、身近な犯罪認知件数の 50.8%を占めています。

また、自転車盗認知件数の約 6 割は無施錠でした。

本市の身近な犯罪に占める自転車盗の認知件数



政令指定都市（令和元年の犯罪率上位8市）の自転車盗の犯罪率



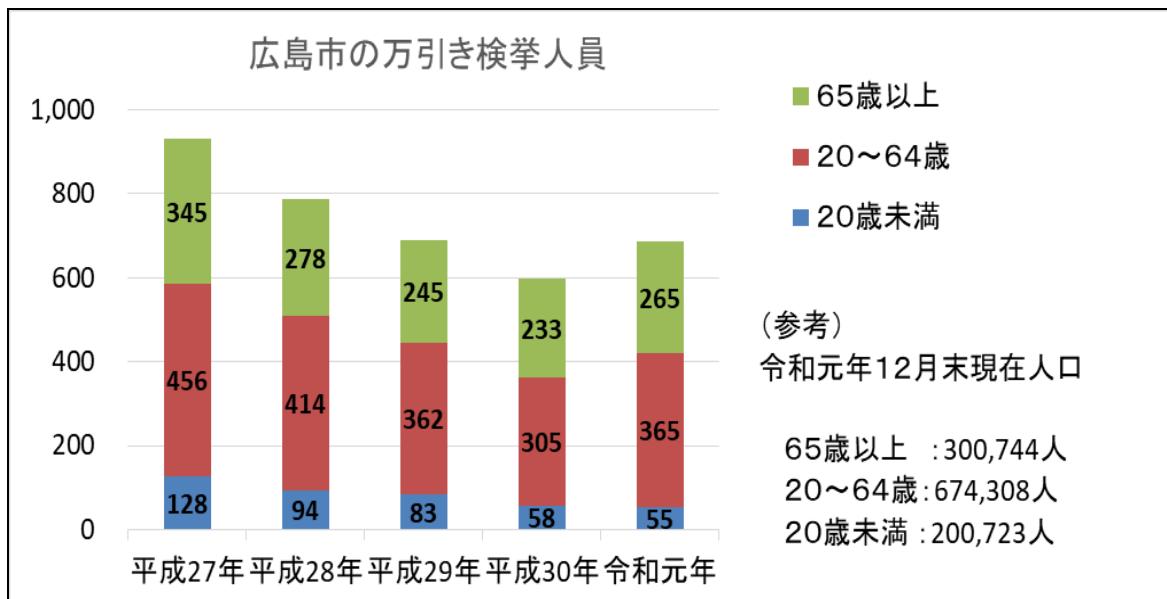
(5) 万引きの検挙人員

万引きは、刑法犯の検挙人員の約3割弱を占めています。

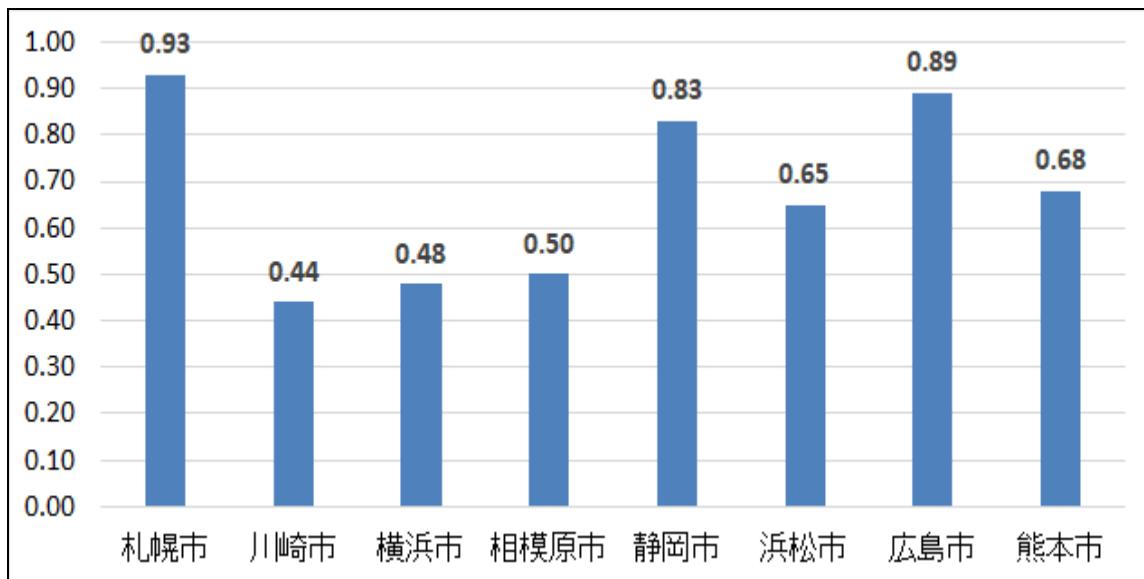
平成27年以降、減少傾向にありましたが、令和元年は増加しました。

65歳以上の高齢者は万引き検挙人員の約40%弱を占めています。

広島市の万引き検挙人員（参考値）



政令指定都市（令和元年の犯罪率上位8市）の万引きの犯罪率



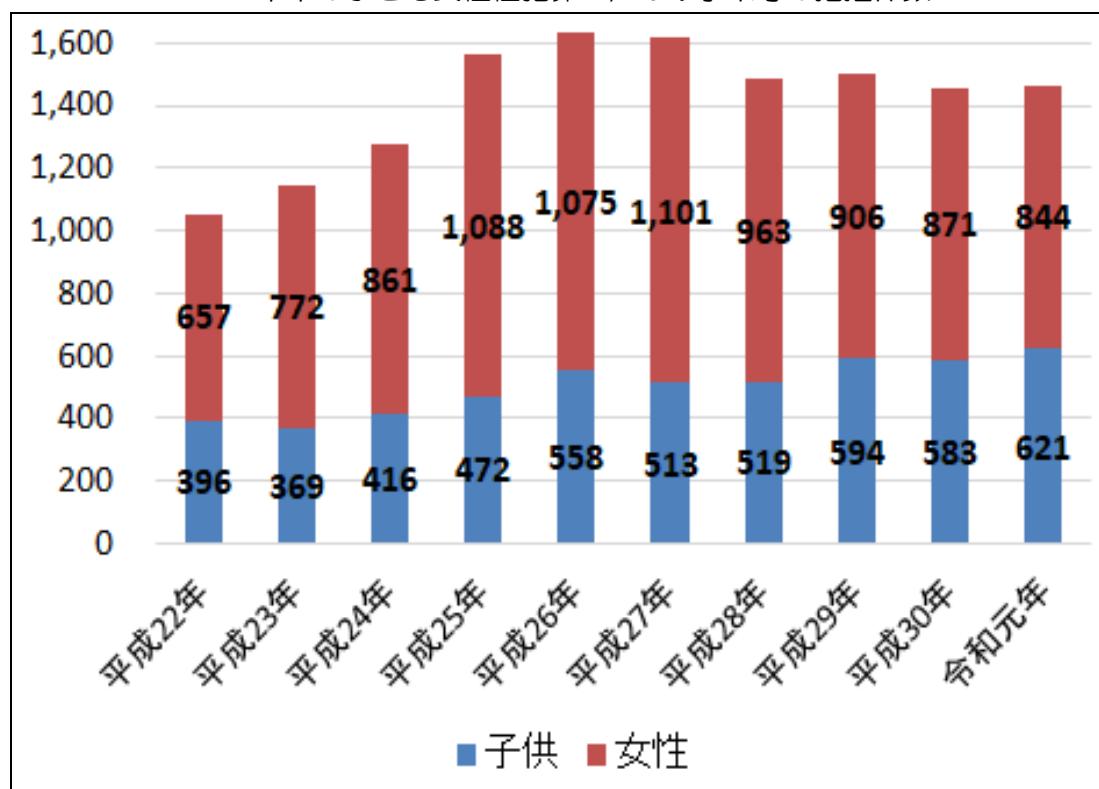
2 子どもや女性に対する犯罪等

子どもに対する声かけ事案等の把握件数は、増加傾向にあります。

また、女性性犯罪・声かけ事案等の把握件数は、平成27年をピークに高止まり傾向となっています。

依然として、1日平均4件程度の性犯罪・声かけ事案等が発生している状況が続いている。

本市の子ども女性性犯罪・声かけ事案等の把握件数

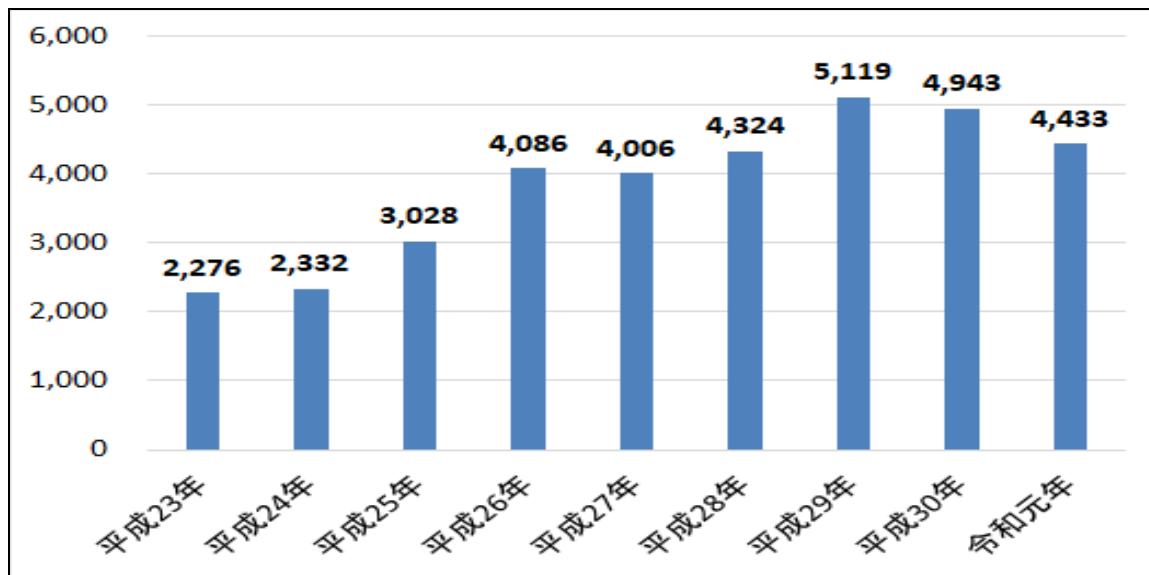


3 新たな犯罪

(1) サイバー犯罪

近年、インターネットなどの普及に伴い問題となっているのがサイバー犯罪です。県内のサイバー犯罪等相談件数は、平成29年をピークに減少しています。

広島県のサイバー犯罪等の相談件数



※ サイバー犯罪とは、コンピューター等を対象とした犯罪、またはコンピューター・ネットワークを手段として利用した犯罪です。具体的には、他人のパスワードを無断使用してコンピューターに不正アクセスする行為やコンピューター・ネットワークを利用した詐欺や名誉棄損などがあります。

(2) 特殊詐欺

特殊詐欺の件数・被害額は、増減の変動があり、令和元年では前年と比べ増加となりました。被害者は高齢の女性が依然として多く、手口は年々変化・巧妙化しています。

本市の特殊詐欺発生状況

